

25 復職した高次脳機能障害者の生活・就労状況に関する調査報告

自立支援局 第一自立訓練部生活訓練課 和田愛祐美 四ノ宮美恵子 森公士朗 阿部真市
吉川杏美 木戸晶子 水谷宣昭 安部恵理子 林八重

【はじめに】自立支援局第一自立訓練部生活訓練課では、平成 18 年から高次脳機能障害者を対象に自立訓練（生活訓練）サービスを提供している。生活訓練終了後の利用者の進路は様々だが（図 1 参照）、これまでその状況を長期的には把握できていない。今回は生活訓練終了者の内、約 10%を占める、復職者に対して聞き取り調査を実施し、事例検討を行ったので報告する。

【調査方法】対象者：平成 18 年 10 月から平成 28 年 3 月までに生活訓練を利用開始した 159 名中、復職した 15 名に電話連絡を行い、面接調査への協力を依頼した。このうち、仕事を継続しており（図 2 参照）面接調査の協力を得られた 3 名を対象とした。また、A 氏と C 氏は妻にも協力いただいた。方法：半構造化面接

【結果】対象者のプロフィールと聞き取り調査の結果は表 1、2 を参照。

復職者 3 名の共通点として、職場の配慮があることと、就労面での相談に関することが挙げられた。3 名とも生活訓練利用中に、職場や地域の支援者に本人の障害状況について情報提供し、業務の切り出しや必要な配慮についても相談しながら復職を目指した。しかし、A 氏は、復職から 2 年半が経過し職場での課題が表出したが、ジョブコーチが終了し、地域の相談先と疎遠になっており、職場が求める支援を得ることができない状況に陥っていた。

また、共通点ではないが、休日の過ごし方は、B 氏は休息、C 氏は趣味に使うというそれぞれの時間の使い方があった。一方、A 氏が自分から何もしようとしないことを妻は気に掛けており、犬の散歩を依頼しているとのことであった。

【考察】復職者の支援において、職場の合理的配慮、必要なときに相談先があること、また個人にあった休日の過ごし方の 3 点が重要であることが分かった。高次脳機能障害のように、直接目に見えず、各個人によって症状や課題が異なる場合、支援者から職場への丁寧な情報提供と、職場や地域、家族の理解と協力が必要となる。復職直後は本人の相談先や支援体制が整っていても、職場のキーパーソンの異動や退職によって、働きやすい環境が変化していくことが予想される。本人や家族からの相談を待つだけでなく、今回の調査のように支援者側から状況把握を行うことで、埋もれているニーズを見つけることができ、改めて支援体制を構築し、地域の支援者に引き継いで行くことは重要であると感じた。休日の過ごし方については、障害状況、元々の性格等の理由で、趣味の有無は人それぞれであるが、本人に合った方法を見つけることも仕事を継続していくためには、大切である。就労に関する訓練や支援だけでなく、休日の使い方を考えたり、余暇支援を並行して行うことも復職支援として有効と考えられる。

【おわりに】今回、生活訓練終了者の状況把握を行ったことで、当時の生活訓練での支援や訓練について、復職後の状況と結びつけて検討することができた。今後、復職を目指す方に対して、3 名の事例を参考に、復職後のイメージを持ちながら支援をし、訓練を提供していきたい。

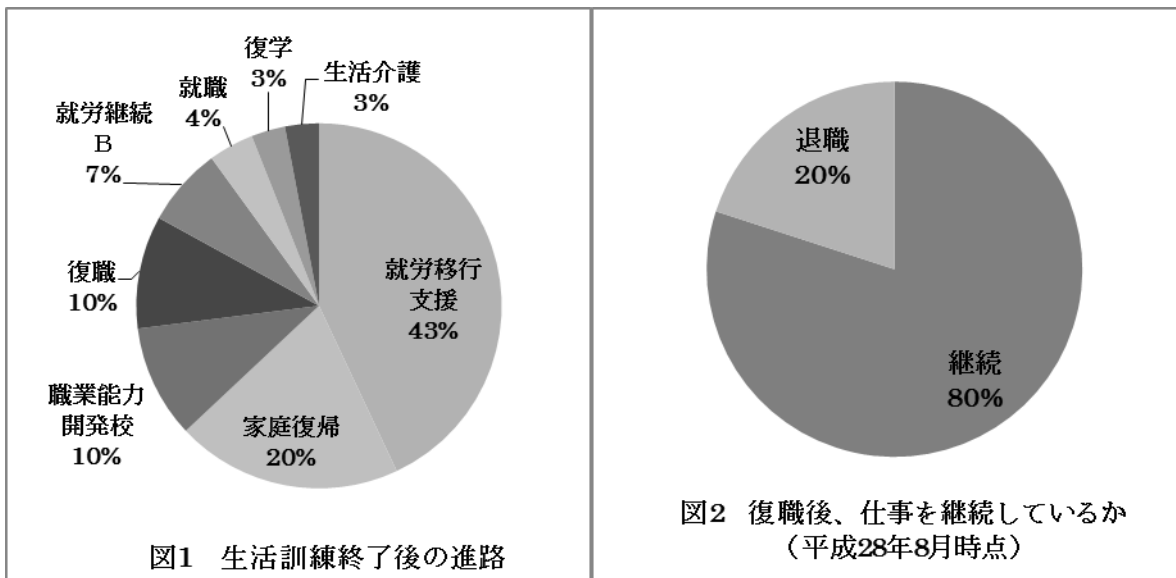


表1 対象者のプロフィール

	年代、性別	家族環境	障害状況	職務内容	復職後の継続期間 (平成28年8月時点)
事例A	40代 男性	家族同居	高次脳機能障害	簡易作業、事務	2年6か月
事例B	50代 男性	単身	高次脳機能障害、左片麻痺	簡易作業	1年9か月
事例C	40代 男性	家族同居	高次脳機能障害、右片麻痺	教職	8か月

表2 聞き取り調査の結果

	生活状況	就労状況	職場からの配慮
事例A	<ul style="list-style-type: none"> ・体調は問題ないが太ってしまった ・当事者・家族会は1度行ったきりになっている ・休日は自分からは何もしない 	<ul style="list-style-type: none"> ・メモを取らずに怒られる ・今の仕事はおもしろくないが仕事は続けたい ・元の設計の仕事に戻りたい ・まかせられる仕事が無いため、配置換えを提案されている ・ジョブコーチが終了し、職場が求める支援をしてくれるところがない 	<ul style="list-style-type: none"> ・業務のマニュアルを作成してもらった ・経験のある作業が多い ・業務の切り出し ・体調等への配慮
事例B	<ul style="list-style-type: none"> ・順調に一人暮らしできている ・週に1回ヘルパーを使っている ・週末はしっかり休むようにしている 	<ul style="list-style-type: none"> ・職場内の先輩にすぐに相談できる環境のため働きやすい ・先輩が退職したら、働きにくくなるのではと不安はある 	<ul style="list-style-type: none"> ・時短勤務から開始 ・以前と同じ業務を担当
事例C	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭で自分の役割をこなしている ・休日は家族で出掛ける ・趣味の鉄道に時間を掛けている 	<ul style="list-style-type: none"> ・時短勤務から始めて、今は通常時間で働いている ・今年度から通信高校へ異動となった ・通勤はバスを乗り継ぎ2時間弱 ・職場は色々な人に相談しやすい 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業数を減らす ・時短勤務から開始 ・レポートの採点はしない